

ハートフルなんぶ

2023. 6月号 vol. 296

長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川1201番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

南部図書館休館のお知らせ

6月20日(火)～7月4日(火)まで蔵書点検のため休館とさせていただきます。

ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

なお、本の返却は玄関横の返却ポストをご利用下さい。



新スタッフ紹介『第2回』

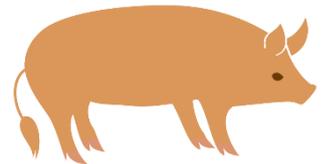
今月も2名の職員を紹介します。

4月から南部図書館にまいりました、塩澤香奈と申します。初めての図書館勤務ですが、早く仕事を覚えて皆様のお役に立てるよう努力してまいります。よろしくお願いいたします。

4月から働かせていただいております小川香です。出身は愛知県です。1日でも早く慣れて皆様のお役に立てるよう精進してまいります。よろしくお願いいたします。

新刊案内

- ・『本売る日々』 青山 文平／著 文藝春秋 <Fア>
- ・『黄色い家』 川上 未映子／著 中央公論社 <Fカ>
- ・『文豪、社長になる』 門井 慶喜／著 文藝春秋 <Fカ>
- ・『あなたはここにいないとも』 町田 そのこ／著 新潮社 <Fマ>
- ・『からだの美』 小川 洋子／著 文藝春秋 <914.6オ>
- ・『60代、かろやかに暮らす』 岸本 葉子／著 毎日新聞出版 <914.6キ>
- ・『他人の家』 ソン ウォンピョン／著 祥伝社 <929ソ>
- ・『完全ドキュメント北九州監禁連続殺人事件』 小野 一光／著 <368オ>
- ・『はじめてのオーガニックな庭づくり』 小島 理恵／著 家の光協会 <629コ>
- ・『最新科学が教えるスポーツメンタル入門』 畑瀬 研斗／著 イースト・プレス <780サ>
- ・『はじめてのオーガニックな庭づくり』 小島 理恵／著 家の光協会 <629コ>
- ・『いつもと違う高齢者をみたら』 荒井 千明／著 医歯薬出版 <493ア>
- ・『おにぎり読本』 ごはん文化研究会／編 講談社 <596オ>
- ・『それ、数学で証明できます。』 北川 郁馬／著 ワニブックス <410キ>





6月のテーマ「ノンフィクション」



- ・『死体解剖有資格者』 スー・ブラック／著 草思社 <498フ>
- ・『「武漢日記」が消された日』 マイケル・ベリー／著 河出書房新社 <498ハ>
- ・『非正規介護職員ヨボヨボ日記』 真山 剛／著 三五館シンシャ <369マ>
- ・『わたしは「セロ弾きのゴーシュ」』 中村 哲／著 NHK 出版 <333ナ>
- ・『ルポにつぼんのごみ』 杉本 裕明／著 岩波書店 <518ス>
- ・『「招待所」という名の収容所』 ロバート・S.ポイントン／著 柏書房 <391ホ>
- ・『あのころ、うちのテレビは白黒だった』 平野 恵理子／著 海竜社 <382ヒ>



ESSAY



「夏祭り×エンパシー(共感)」

寄稿：夕焼けざくろ

私の住む町では、ここ数年コロナで夏祭りが中止されてきた。お祭りは面倒だ、やらなくても良いのでは、という声もチラホラある。わたしも実は面倒だ、と思っている一人であった。地域という共同体はとても複雑で、時に問題が起こる。そしてそれが分断を起こす時もある。最近もそのようなニュースを目にすることもあった。私はここ数年、他者理解や、共感(エンパシー)が丁度良い人間関係に保つと考えていて、その手の本を読む機会が多く、今回も平田オリザさんの『ともに生きるための演劇』という本に惹かれた。

この本は演劇という1つの視点から対話の重要性について、深めることができる本で、祭りが面倒である、という私の考えを1~2時間に変えてしまった。私自身、影響を受けやすいという性格もあるのだが、細かな具体例が分かりやすく言語化されており、共感する部分が非常に多かった。

平田さんは「演劇」について、「演劇」の起源はコミュニケーションにある。私たちは、日常生活において都合の悪いことや面倒なことは切り捨てたりして、調整しながら世界を認識しており、「演劇」、つまり「演じる」という体験を通し、そのような調整をせずに世界を表現することで、固定観念や思い込みを排除し、人間のもつ複雑性に向き合うことで「世界を見る解像度を上げる」ことができると説明している。

つまり、人は、自分と異なる価値観に出会った時に、物事を瞬時に分類し、価値づけし、面倒なことは切り捨てている。しかし「演じる」ことを忠実にやった時、人間の複雑性に向き合い、自分と異なる価値観を体験し、理解、共感することができる、ということだ。他者理解を白か黒かではなく、グラデーション化するというと分かりやすいだろうか。

祭りや芸術がコミュニティに果たす役割についても具体例があり、私は特に共感した。「体験」することがお祭りに参加することであり、共同体の中で様々な年代や、背景を持つ人たちの価値観のすり合わせを「体験」する機会なのではないかと思ひ、祭りの持つ作用に改めて気づくことができた。

今年は私の住む地域で夏祭りが催されるそうだ。子ども達も、身近な共同体で、一つの神事に参加することで多様な価値観を学び、感じてほしいと願う。

参考文献:『ともに生きるための演劇』 平田 オリザ／著 NHK 出版 (※こちらの書籍は図書館に所蔵がありません)

南部図書館

開館時間：午前10時～午後6時

■は休館日です

開館カレンダー

6月20日(火)～7月4日(火)は蔵書点検のため、休館いたします。

2023年6月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

2023年7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					